高知県 高岡郡 四万十町
→ 株式会社 四万十ドラマ

おちゃくりから、びっくりする未来を。

SHIMANTO

沈下橋

課題

大人気のお茶と栗。作り手が足りない！

川の音が心地よく響く、四万十川中流域。少ない平地を活用し、複数の作物を栽培する複合農業で成り立ってきました。地域商社として特産のお茶や栗の加工品開発・販売に尽力してきた（株）四万十ドラマ代表の畦地さんによると「商品の評判は年々高まり、常に品切れ状態。作る人が足りないんです」この地の課題は、人口減少による農業の担い手不足でした。

挑戦

“6次産業人財”を地域ぐるみで育てよう。

「そこで立ち上げたのが、人財の6次産業化プロジェクトです」と畦地さん。「お茶や栗を生産する1次産業だけでなく、その加工品を開発する2次産業、販路拡大する3次産業まで全てに携われる人財を、地域ぐるみで育成する研修プログラムを開始しました」農閑期に仕事と収入を確保できるこの6次産業化は、新たな移住者の定住につながります。

未来への期待

あなたの地域の“足元にある宝”は？

さっそく今年、プロジェクトに興味を持った3名の若者が他地域から移住し、お茶・栗栽培の現場で研修中です。農業の匠の技を継承しながら、色々な仕事を掛け合わせて地域で安住できる人財を増やす——「この仕組みは、全国の中山間地域のモデルになり得る」と畦地さん。「四万十のお茶と栗のように“足元にある宝”は、きっとどこでも見つかるはずですから」

自分たちの足元にあるものを活かす！

みらい基金

株式会社四万十ドラマ
畦地履正
代表取締役社長

栗の匠

お茶の匠

道の駅 四万十とおわ

「農林水産業みらい基金」は、
農林水のみらいをつくる
全国の活動を応援しています。